

横浜市感染症発生動向調査報告 2月

《今月のトピックス》

- 2020年2月1日に「新型コロナウイルス感染症」が指定感染症になりました。
- インフルエンザの報告数が流行注意報解除基準を下回りました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加しています。

◇ 全数把握の対象

〈2月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
E型肝炎	2件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	5件	梅毒	5件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件	百日咳	6件
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:フィリピンでの感染と推定されるO111の報告が1件ありました。
- 2 E型肝炎:経口感染と推定される報告が2件ありました。
- 3 レジオネラ症:肺炎型の報告が3件、ポンティアック熱型の報告が1件、無症状病原体保有者の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:A群の報告が2件、G群の報告が1件、血清群不明の報告が1件ありました。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む):無症状病原体保有者の報告が2件(同性間性的接触の男性1件、異性間性的接触の女性1件)ありました。
- 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症:70歳代の報告が1件ありました。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症:10歳未満の報告が1件(ワクチン接種あり)、60歳代の報告が1件(ワクチン接種なし)、70歳代の報告が3件(ワクチン接種あり2件、なし1件)、80歳以上の報告が4件(ワクチン接種なし1件、不明3件)ありました。
- 9 水痘(入院例に限る):30歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 10 梅毒:5件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒 I 期2件)がありました。感染地域は3件が国内、2件が不明で、感染経路は性的接触が3件(異性間が2件、同性間が1件)、不明が2件でした。性別は男性4件、女性1件でした。
- 11 破傷風:80歳代の報告が1件ありました。ワクチン接種歴は不明です。
- 12 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:台湾での感染と推定される50歳代の報告が1件ありました。
- 13 百日咳:10歳未満が1件(ワクチン接種あり)、10歳代が3件(ワクチン接種あり)、30歳代が1件(ワクチン接種不明)、50歳代が1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。

◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

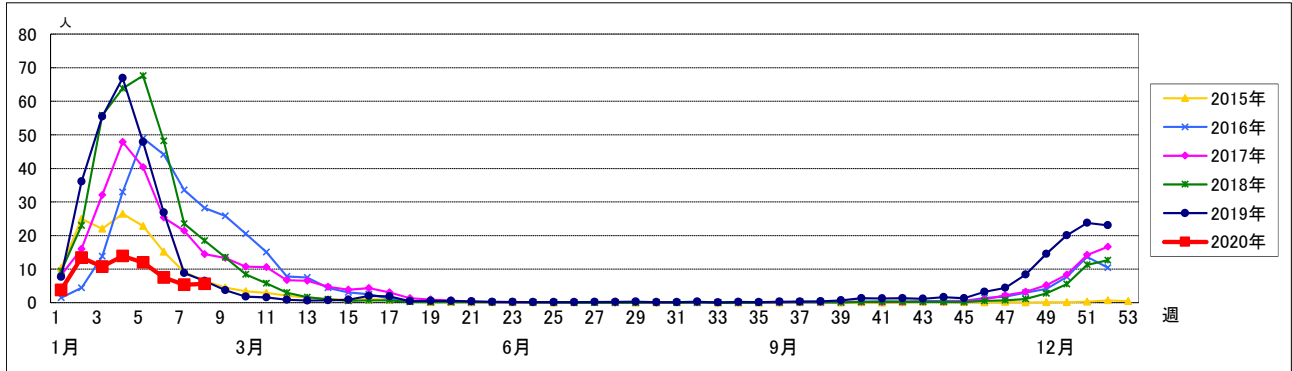
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm

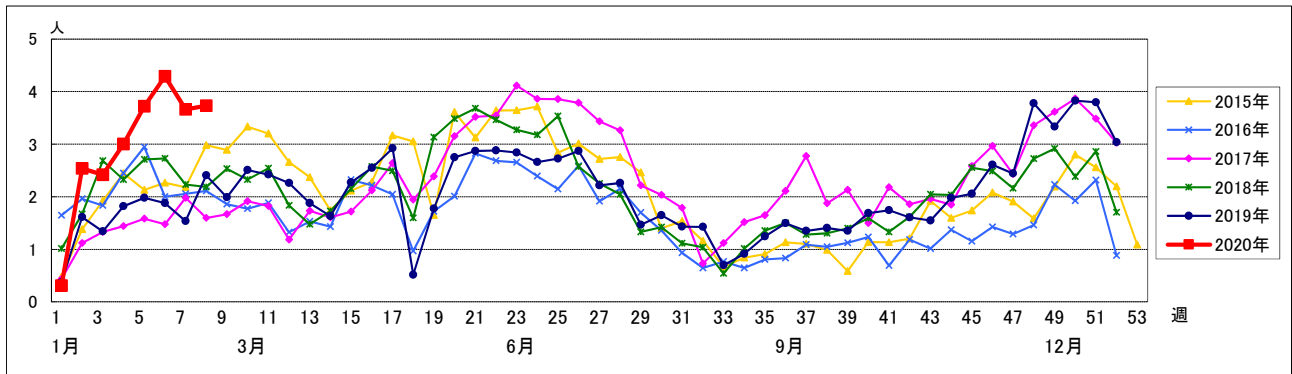
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第 5週	1月27日～ 2月 2日
第 6週	2月 3日～ 2月 9日
第 7週	2月10日～ 2月16日
第 8週	2月17日～ 2月23日

1 インフルエンザ:今シーズンの市全体の定点あたりの患者報告数は、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週に14.51となり、流行注意報が発令されました。第51週にて23.78と今シーズンのピークとなり、第6週で7.52となり、流行注意報解除基準を下回りました。第7週で5.36、第8週で5.62と横ばいで推移しています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:夏に報告数が減少していましたが、冬季に入って報告数が増加しています。第7週で3.66、第8週で3.73となっています。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:32件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性:18件
尖圭コンジローマ	男性: 2件	女性: 3件	淋菌感染症	男性:14件	女性: 1件

4 基幹定点週報

	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.75	1.25	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月期(2020年第5週～2020年第8週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点47件、内科定点21件、基幹定点4件、眼科定点2件でした。

ウイルス分離56株と各種ウイルス遺伝子1件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果2月期(2020第5週～2020第8週)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状		
	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ*
インフルエンザ AH1pdm09 型			33
インフルエンザ AH3 型			1
インフルエンザ B 型 (Victoria)	1		19
アデノ 2 型	2		
ライノ		1	
合計	3	1	53

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*:疑い含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月期(2020年5週～2020年8週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管毒素原性大腸菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、薬剤耐性アシネトバクター1件、侵襲性肺炎球菌2件、サルモネラ属菌1件、大腸菌1件。非定点からは、バンコマイシン耐性腸球菌1件の依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌4件、侵襲性インフルエンザ菌1件、侵襲性肺炎球菌1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からマイコプラズマ1件、ボツリヌス毒素2件。保健所からレジオネラ4件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌3件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査2月期(2020年5週～2020年8週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	腸管出血性大腸菌	1	O111 : H- VT1	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
			<i>Escherichia coli</i> (1)	
	基幹定点	薬剤耐性アシネトバクター	1	<i>Acinetobacter bereziniae</i> (1)
		侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 22 (1) UT (1)
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Typhimurium (1)
		大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O8 (1)
	非定点	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium vanA</i> (1)
	保健所	腸管出血性大腸菌	2	O103 : HUT VT1 O26 : H- VT2
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Serratia marcescens</i> (1)
劇症型溶血性レンサ球菌		4	A群溶血性レンサ球菌 (2)	
			B群溶血性レンサ球菌 (1)	
			G群溶血性レンサ球菌 (1)	
侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (1)		
侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 33型 (1)		

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関	基幹定点	マイコプラズマ	髄液	1 不検出(PCR法)
	非定点	ボツリヌス毒素	便・血清	2 不検出 2検体(国立感染症研究所)
保健所	レジオネラ	喀痰	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、 不検出 (3)

小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	3	T6 (1)、TB3264 (1)、TUT (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】